

巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

今回の長野県透析研究会誌は、2025年10月19日に千曲市「信州の幸 あんずホール」にて開催された、第73回長野県透析研究会学術集会（大会長：千曲中央病院 大西禎彦先生）の発表内容を中心に構成されています。

第73回学術集会では、「透析患者の Advance Care Planning — 医療スタッフの役割と患者との共同意思決定 —」をテーマに、多数の一般演題が発表されました。また、大会長企画シンポジウムとして「透析患者の ACP を考える ～自分らしく生きるために～」が開催され、活発な議論が交わされました。

さらに、透析患者の高齢化に伴い、栄養障害やフレイルが大きな課題となっている現状を踏まえ、日本大学医学部腎臓内科 阿部雅紀教授より「透析患者の栄養障害とフレイル対策」と題した特別講演を賜りました。そのほかにも複数の企業セミナーが企画され、大変盛況な学術集会となりました。参加された皆様にとっても、有意義な学びの場となったのではないかと思います。本研究会誌を通じて、当日の熱いディスカッションを改めて振り返り、日々の診療に役立てて頂ければ幸いです。

長野県透析研究会誌は、2022年よりオープンアクセス電子ジャーナルとして公開されています。オープンアクセス化により、長野県から発信される研究成果が全国で広く活用されることが期待されます。一方で、論文公開にあたっては、個人情報保護や倫理面への配慮に加え、研究内容の妥当性を担保するための査読が不可欠です。今回も多くの査読者の先生方にご協力頂き、web公開前に十分な論文チェックを行うことができました。この場をお借りして、査読者の皆様に深く感謝申し上げます。

現在、わが国の透析患者総数は、2021年末をピークに減少傾向にあります。その背景には、慢性腎臓病や糖尿病関連腎臓病に対する重症化予防対策の進展、新規治療薬の開発による透析導入患者数の減少に加え、透析患者さんの高齢化に伴う死亡数の増加も関与していると考えられます。透析患者さんの予後改善のためには、サルコペニア・フレイル対策、適切な栄養療法、腎臓リハビリテーション、質の高い透析医療、さらには腎不全合併症への効果的な治療など、多面的な介入が必要です。

また、腎代替療法導入患者さんの高齢化も年々進んでおり、個々の患者さんの価値観や背景に応じた腎代替療法選択の重要性が高まっています。腎代替療法の選択においては、血液透析のみならず、腹膜透析、腎移植、さらには保存的腎臓療法（CKM）も含めた十分な説明と同意に基づく共同意思決定（SDM）が不可欠です。そのような流れの中で、末期腎不全に対して一律に透析導入を行う

のではなく、緩和ケアを主体とした保存的腎臓療法（CKM）を選択する患者さんも徐々に増えてきているように思われます。腎不全診療における緩和ケアの重要性は今後さらに高まると考えられ、我々透析医療従事者も、改めてその在り方を学び直していく必要があります。

さらに社会情勢に目を向けると、地球温暖化に伴う自然災害の増加や、世界各地で続く紛争などが、透析医療の持続可能性に影響を及ぼしつつあります。一方で、AIやロボット技術の急速な発展は、透析医療に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。しかしその一方で、これまで想定されなかった新たな課題が生じる可能性も否定できません。

長野県透析研究会および長野県透析研究会誌が、こうした多様な課題について様々な視点から議論を深め、その成果を広く世界へ発信できる存在となることを願っています。会員の皆様におかれましては、今後とも志を共有し、ともに歩んで頂ければ幸いです。今後とも、よろしくお願い申し上げます。